



11/29

八地申 二度と触車死亡事故を発生させない 第4号 ための緊急申し入れの交渉を開催！

2021年9月24日に発生した高円寺駅人身事故の際、救済のため対向列車を運転再開しましたが、消防隊員が線路上に居てあわや触車死亡事故が発生するところでありました。二度と同種の触車死亡事故を発生させないために、緊急に申し入れをし、団体交渉をいたしました。

申し入れ

1. 救急隊の命を奪いかねない接触・触車の恐れがあった今回の事象に至る経緯、ならびに認識を明らかにすること。

※長時間停車による旅客救済のための運転再開について問題にするつもりはないが、今回の事象に対する認識は？

会社回答

14:27に1463Tが高円寺駅通過の際、人身事故が発生し、負傷者の救出を行い、当該列車は15:19に同駅92分延通した。なお、関係者間で打合せを行い、駅間に停車している1352Tは運転再開したものである。

現地責任者を含めやるべきことはおこなっていたが、消防隊員が線路に降りてしまったこと・隣接線を列車が走行したことは適切ではない。

認識一致

2. 救急隊・警察官などの関係者は現地責任者の指揮下に置くことを再徹底し、鉄道敷地内で発生した事象についてはJR東日本が責任をもって全体を把握できる体制を確立すること。関係列車の抑止解除については、現地責任者が関係者全ての退出を一か所に集合させ確認した上で、現地責任者の判断とすること。

※現地責任者となる社員とは？

また、どれだけ打合せをしても起きてしまったことは事実である。社員一人一人が自分のこととして捉えるために申し入れでは一つの具体策として提起した。会社として対策の具体策は？

現地責任者となる社員に対しては、負傷者の救出を行う前の抑止完了確認と運転再開時の安全確認の重要性を引き続き指導していくとともに、関係個所と事象を共有し、再発防止に向けた指導徹底を行っていく。

現地責任者となる資格を有している社員と東日本ステーションサービス・中央コミュニティーデザインの社員を含み教育していく。

様々シチュエーションがあり、これが答えとはならないが、消防も含めて今回の事象を教訓として再発防止に向けた指導徹底を行っていくことである。

具体策はないが、再発防止に向けた認識は一致